様式第１号

会　議　録

会議の名称		令和５年度第４回つくば市地域ケア会議 第４回つくば市生活支援体制整備推進会議
開催日時		令和６年２月８日（木） 開会 午後１時 30 分　閉会 午後３時 40 分
開催場所		つくば市役所　会議室 203
事務局（担当課）		福祉部地域包括支援課
出席者	委　員	下村哲志委員、山中克夫委員、小原正彦委員、北島正義委員、石塚一夫委員、小林路江委員、今髙哲生委員、大橋功委員、佐藤文信委員、黒田一路委員、但野恭一委員、椎名清代委員、前田亮一委員、佐々木湧人委員、根本けい子委員、白石通委員 （オンラインでの出席）成島淨委員、海老原良之委員、水谷浩子委員、福井正人委員
	その他	つくば市社会福祉協議会　２層 SC 難波（筑波）、大塚（大穂）、長岡（豊里）、荻生（谷東）、堤（谷西）、宮川（桜）、小倉（茎崎） 筑波地域包括支援センター　松原センター長 大穂豊里地域包括支援センター　井ノ口センター長 谷田部西地域包括支援センター　平林センター長 谷田部東地域包括支援センター　鬼久保センター長 桜地域包括支援センター　寺田センター長 茎崎地域包括支援センター　大塚センター長
	事務局	地域包括支援課：相澤課長、飯島課長補佐、川崎保健師長、松尾社会福祉士、佐藤保健師、佐野社会福祉士、宮主任 高齢福祉課：石川係長、川上主事

様式第１号

公開・非公開の別	■公開　□非公開　□一部公開	傍聴者数	０人
議　題	（１）報告事項 ア R5 つくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議総括 イ R5 第２層生活支援体制整備事業総括 ウ R5 地域ケア会議総括 エ R6 以降の２会議の実施内容について （２）まとめ （３）その他		

＜審議内容＞

１　開会

課　長：定刻になりましたので、ただいまより、令和５年度第４回つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議を開会いたします。

私、本日の進行を務めます、つくば市地域包括支援課の課長の相澤と申します。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、１点、ご確認させていただきます。

つくば市では、市政運営の透明性の向上を図ることを目的として、市主催の懇談会等の公開に関する条例を制定し、会議の公開を行っております。

つきましては、本日の会議につきましては、公開の会議とさせていただいております。

併せて会議後は、会議録を作成し、ホームページに掲載させていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

なお、本会議を傍聴される方々は、携帯電話等による通話や写真、動画の撮影録音はご遠慮くださいますようお願いいたします。

また今回も、複数の委員の方が Zoom による参加となっております。それぞれの画面のところに名前が出ていると思いますので、ご確認ください。

様式第１号

では、議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

（資料を掲げ、確認）大丈夫でしょうか。

それでは、開催要項第五条第１項、第六条第２項の規定により、ここからの議事進行を山中委員長にお願いいたします。

山中委員長：皆さんこんにちは。

今回も全員出席、ありがとうございます。

問題意識を持って、ここに参加していただいていると思います。

このメンバーでの会議は今日が最後になりますので、今日の議題は、これまでやっていたことを総括して、次につなげるために、皆さんからコメントやご意見等をいただければと思います。

それでは次第に基づきまして、報告事項のア、令和５年つくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議総括ということで、一層コーディネーターからお願いします。

事務局松尾：はい、ありがとうございます。地域包括支援課の松尾です。

私から、資料１番の令和５年度つくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議総括の報告をさせていただきます。

（資料 No. 1 を元に説明）

山中委員長：ありがとうございました。

こちらの報告について、ご意見ご質問等がありましたらお願いいたします。

今までやってきたことで、うまくいったこと、いかなかったこと、おそらく委員の皆様が感じていることとは思います。

また後でまとめの時間もございますので、そういうところで全体的にご意見いただくこともできますので、よろしいでしょうか。

続きまして、イ、令和５年度の第２層生活支援体制整備事業総括ということで、2 層のコーディネーターの難波さん、よろしくお願いい

たします。

難波ＳＣ　：では２層の報告をさせていただきます。

資料 No.　２をご覧いただきながら、ご説明を進めていきたいと思います。

まず、全圏域で取り組んでいたことについては、全体報告として説明をさせていただき、各圏域につきましては、特に力を入れて取り組んだことのご報告をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず全体の報告として資料に沿ってご説明をさせていただきます。

（資料２を元に説明）

大塚ＳＣ　：大穂圏域、担当の大塚です。大穂圏域についてのご報告をいたします。（資料２を元に説明）

長岡ＳＣ　：豊里圏域の担当となっております、長岡です。よろしくお願いいたします。（資料２を元に説明）

荻生ＳＣ　：谷田部東圏域担当の荻生です。よろしくお願いします。

（資料２を元に説明）

また今回ここには記載していませんでしたが、昨年度以前から続いている支えあい活動が数多くありまして、それぞれが活動を続ける中での悩みや課題、例えば集まりの場に来られずに地域で孤立している人がいるとか、あと活動に参加したくても手がないなどの課題に直面しています。課題の解決に向けた取り組みについて、住民の皆さんと一緒に考え、必要な資源や関係機関との繋がりを丁寧に行っていきたいと思います。以上です。

堤　ＳＣ　：谷田部西圏域です。谷田部西圏域では、一番左側に書いてあります。①から④についてです。（資料２を元に説明）

宮川ＳＣ　：続きまして桜地区担当の宮川です。（資料２を元に説明）

様式第１号

小倉ＳＣ　：茎崎圏域担当の小倉と申します。

茎崎圏域の取り組みとしまして、①から⑤までありますのでご報告させていただきます。（資料２を元に説明）

山中委員長：ありがとうございました。

写真もあり、非常に具体的な雰囲気も分かって、対応もあったと思います。関連しまして、今お手元に桜圏域の社会資源集が配布されていると思います。

但野副委員長：第 2 層コーディネーター皆さん、いろんなところに広げていただきましてありがとうございます。

色んな活動が立ち上がり、実現できたのではないかなというふうに思いますので、心から感謝申し上げたいと思います。

私から２つコメント、時間を使ってもいいですか。

１つは、委員の皆様のテーブルに、「自分の居場所と出会いのため」にという、桜圏域版の社会資源集の配布をさせていただきました。これは 2022 年 8 月、桜地区 2 層協議会でこういうものを作りましょうと決議されまして、その後ボランティアを募り、9 名のボランティアで作成チームを作って、約 1 年半かけて完成させたものです。約 20 回の会議を開いて、こういう資源集にとりまとめることができた次第でございます。

なかなか時間も使ったわけですけども、その中でも、結構見栄えのする、我々としても予想以上のものが完成できたのかなと思ったのですけど、その中でも、一番大変だったのは、この予算をどこから持ってくるかということでした。予算がゼロから始まるわけですけれど、その予算をどうするかということで、ものすごく、労力をかけました。

あともう１つはこの社会資源集の中には、地域の活動団体の 170

団体のデータが入っているのですが、本当は 300 ぐらいの集めようと思いました。紙で集めるだけでなくオンラインで集める。あとその集めた情報を皆さんに、どうお見せするか。

見栄えも含めて、どういうふうにしたらいいのかを考えたときに、なかなか私も含め、高齢者だけのチームでは難しかった部分があって、宮川さんと相談して、筑波大学の学生さん、まちづくり団体かざぐるまという団体さんがあるのですが、そこの協力を得ることができました。こういう形に仕上がるのに、非常にポイントになったのは、予算を何とか確保したけど、筑波大学の学生さんの力をお借りすることができ、それがキーポイントになりました。

予算に関しましては、桜地区の区会連合会の予算 30 万、何とか工面をしていただきました。

もう１つは紆余曲折あったのですが、アイラブつくばまちづくり補助金から 15 万。要するに 45 万の予算を何とか確保して 1500 部印刷することができた次第です。

中身について、社会資源集桜圏域版の４ページ目に内容等も出ておりますので、見ていただければと思います。

一応完成した段階では、掲載団体はもちろんですけど、桜地区のすべての区長さん、民生委員さん、区長は 114 人で民生委員 58 名いるのですけど、あと６つの交流センター、桜地区の包括支援センター、社会福祉協議会、市民窓口センター、市立図書館、筑波大学の図書館とかいろんなところに配布をさせていただいて、この確認できる情報を必要とする皆様に提供いただきたい、活用いただきたいということで、やっとこの１月末のチーム最終会議が終わりまして、今日皆様にお届けすることができましたので、その経緯も含めて、参考にしていただければというふうに思いました。

時間がないけど、もう１つのコメントですけど 2 層コーディネーター全体の中で、⑦で、SC として迷いや悩みが多いためと書いてある。今年から新たに取り組まれたコーディネーターが多いですけど、ここまでいろいろ、本当にありがたいことだと思いました。ただ、ぜひコーディネーターさんとして迷いとか悩み、訴えている部分に関しては、１人で抱え込むことなく、信頼できる地域住民にお話をいただいたり、相談いただくということも、ぜひやっていただきたいというふうに思うところです。

あるいはこういう相談できる人をできるだけ確保することも、地域の信頼できる住民を確保することも、とても大事なんじゃないかなと思いました。あくまでもコメントです。

質問３つ目、コーディネーターさんが各種研修に参加されたということでしたけれど、今年度はどのような研修に参加されたのか、具体的に教えていただきたいと思います。

２つ目、筑波圏域ですが、自動追従ロボット実証実験を 12 月からやられていると書かれていますけど、この始まった経緯と進捗状況がどうなのかもちょっと説明いただければ。

あと３点目、最後の質問です。

ご説明の中で大穂地区、豊里地区、谷田部西地区、茎崎地区でそれぞれコアメンバー会議が開かれていると書かれています。

私が所属する桜地区では、そういうのは設けてないのですけど、コアメンバーの基準ですが、選任も人数的にどうなっているか。

コアメンバー会議についてもう少し補足の説明をいただけるとありがたいです。以上です。

山中委員長：研修についてはいかがでしょうか。

難波ＳＣ：　具体的な研修の資料持ってきていませんが、例えば県社協で行ってい

る、近隣の社協が集まって、コーディネーターでいろいろ情報交換、情報共有するような研修だったりとか、あとはコーディネーターとして、どういった住民の方々と協議体を作り上げていったらいいかとか、オンライン上で受けるようなものだったりとか、あとはいろいろ住民の皆さんと地域活動を進めていく中で、今更聞けないけれども、具体的にどんなことから取り組んだらいいかというような研修などが、県社協だったり民間だったり、いろいろなところでやられているのですね。

そういったものの中で、日程的に条件が合うものだったり、全員で参加するのはなかなか難しいので、その中でいろんな研修が来たものを導入して、自分のスケジュールと希望を取りながら、いろんな研修を受けられる範囲で行っているというような状況になっています。

今日資料持ってないので全部説明ができないのですが、私たちまだ不慣れなコーディネーターが多いものですから、基礎的ところで、学べるような内容の研修に参加させていただいている状態です。

山中委員長：ありがとうございました。

筑波地区の自動追従ロボット実証実験について、時々話も出たと思うのですけども、今どんな感じでしょうか。

白石委員：　それでは自動追従ロボット実証実験について、まずなぜ小田なのかという部分ですが、私ども、筑波圏域の中にも出ているように、小田地区は旧小田小学校、これは区会が７つ、いわゆるその生活支援整備体制事業の実験的に第３層という、小学校区、区長、民生委員、それから地域関係者集めて、みんなで地域を良くしていくために、住みやすい地域を継続していくためにという集まりをやっております。

ということで、ある１つの何かをつくば市が行おうとしたときに、私どもの方へ、一言相談していただければ、7区会まとめて、こちらで

全部電話したり、了解を取ったり、全部出来るという、そういう利点があるということで、以前からつくば市の方とのいろんな協議ができておりました。

昨年市内で高齢者のスマホ教室をやっていました。

これの実証実験を昨年度、我々小田地区でやりました。その結果をもとにして今年、つくば市全体でやっているということがあります。ということから、つくば市で最先端の中で、地域のお年寄りに何かメリットになる事業という部分を、考えていただきました。筑波地区、他の地区でもやっているかと思うんですが、移動スーパーというものがあるんですが、その移動スーパーで地域のお年寄りが買い物をした後で、重い荷物を持って家まで行くのが大変だろうということで、買い物支援ということで市の方で始まっています。

そういう中で、この会議でもありましたけれどもごみ出し支援という部分もありましたので、私どもの方から、つくば市と協議の中で、買い物支援プラスごみ出し支援という形でできないか、そういう形の中で、小田地区で実証実験を受けてくれないか、そういう経過があって小田地区でという形になりました。

その時、生き生き会議の中で、事務局プラスアルファで、つくば市さんの方から説明を受けまして、内容を聞きました。

その時に、まだまだ本当に実証実験といっても、ロボットと言ってもロボットと言えないような状況の中で、これをいかに運用していくのか、この１つ大きなロボットをそれぞれのお年寄りに預けられるものなのかどうかということも、討議した上で、やはりこれはロボットを運用する責任者を設けて、そこの責任者のもとで、いろいろな必要なお年寄りに協力していただいて、実験をしていくというようなやり方が必要じゃないかと。そういうところも、つくば市と話し合い

まして、地域のいろんなお年寄りとか、それからもともと移動スーパーの小田地区という部分で私、関わっていて、そこに集まる方は全部分かっていたし、民生委員をやっているということで、地域のお年寄りの事情もわかっていることで、運用責任者ということで私がやらせていただくような形になりました。

12 月からいよいよ始まりましたが、地域の中で、一番必要であろうと思われる、95 歳の老人、私の母親ですが、何とか歩けますが、この母親が、家事担当、今でもやっているトイレ掃除、ごみ出し、そして居間掃除、これが私のおふくろの家事分担。

ごみ出しについて最近本当に力がなくなって、重い荷物を持つのが大変だということで、このロボットを使って、重い荷物を持ってごみ集積場まで運んで出すという実験。その他近所の方々にも協力を求めて、いろんな方に使っていただいて、それから買い物支援もそうですけれども、そのつど、いろいろな意見を出していただいて、それからロボットが脱輪、そういう部分も含めて、全部記録をして、つくば市の方へバックして、少しでもいいものを、つくば市の方で作っていただいて、使えるものになればという形で登録をさせていただいているということです。２月いっぱいという形になっていますので、いろんなデータを今でも集めております。

間もなく、このロボットをお年寄りが使っているのを見た、小さな子供さんがものすごく興味を示してくれましたので、来週保育所行って、子供たちにロボット実体験をしてもらう。

そしてその子供たちに、このロボットに名前をつけて頂く。

やはりお年寄りなんかに聞くと、使っているとすごくかわいいと思ってくるのですよね。

黙って一生懸命ついてきてくれて、すごく、いとおしくなる。

やっぱり日常、そういうものを使うということは、いとおしい、かわいいという感覚が生まれてこないと、なかなか一緒に頑張りたいなと思っていますので、そういうことも含めて、子供たちにも興味を示していただいて、おじいちゃんおばあちゃんを応援するロボット。これの名前をなんとかつけていただければなというようなことで今、実証実験を進めているところです。

２月いっぱいやりまして、そのあと、つくば市の方へデータをお渡しするというような形になっております。以上です。

山中委員長：どうもありがとうございました。

それからもう１点コアメンバーについてですね。

難波ＳＣ　：コアメンンバーは、必ずどこの地区でも作ろうとしているわけではなくて、最初は茎崎地区で、この２層会議の運営方針を一緒に考えるチームとして、メンバーを集めたのが多分スタートだったのかなというところになっています。

２層会議を進めていく中で、いろんな意見が出にくかった状況がありまして、そこの中で、皆さんにどういうテーマだったら話しやすいか、意見を出しやすいか、話し合いとはどういうものかを一緒に考えていただく人たちということで、コアメンバーを作ったというところになります。

地域性もありまして、そういったメンバーがいなくても、いろいろと意見交換ができるチームもあれば、なかなか会議の中だけで人を集めても意見が盛り上がらない地域がありますので、その地域に合わせ、コアメンバーを作る、作らないというのも地域の皆さんと相談しながら、職員だけでは上手に情報を得られない、なかなか会議がうまく回せないっていうところで、コアメンバーを地区によって作っていった流れです。

メンバーの中身としては特に決まりがあるわけではないです。

その地域の中で、どんな方にメンバーになっていただくといいかなというところで、職員が内部で少し相談をしながら、お声をかけて、コアメンバーになっていただいて、話し合いを進めているところで、細かな決まりや役を作ったりするものとは違います。

山中委員長：ありがとうございました。

コアメンバーについては、そもそもつくば市は広いのに７圏域と大きく分けられていて、生活支援コーディネーターの皆さん１人ではとてもまとめることができないというようなところで、この一層の会議で、住民の皆さん主体でやっていくので、取りまとめとか、各地域から情報集めたり、担い手ということで、そういうコアになるようなメンバーが必要じゃないかというようなところからそもそも始まりました。

具体的な資料を与えていただいたのですけども、今日総括ですので、時間が延びるかもしれませんが、ぜひコメントしたい、そういうこと何かありましたらお願いいたします。

佐々木委員：2 層の協議について、各地区でそれぞれの取り組みをしていると思ったのですが、来年度以降の今も 2 層コーディネーターの方がずっと同じ方がやるのかについて。

山中委員長：それは毎年委託契約になるのですよね。

事務局：　地域包括支援課課長の相澤です。

生活支援体制整備の第２層協議体の SC の委託については、１年ごとに契約をするものです。

ですので、今後、来年以降どうするかっていうところは、協議しているところですが、もし、今後も継続して、社会福祉協議会に委託を想定はしているのですが、実際の契約はまだ進んでおりませんが、さら

に進んだ場合はということの過程で、お答えいただくしかないかなと思うんですが、よろしくお願いします。

山中委員長：でも、確かに地域の皆さんなんかにもそういう契約の年度ごとで行われていることもご存じない方もいらっしゃると思うのでいい機会じゃないかなと思います。

社協大橋：　今のご質問ですけども、もし継続しいて契約になった場合、この圏域コーディネーターが変わるのかという話だと思うですが、これに関してはやはり今ハッキリと変わりませんってことは申し上げられなくて、人事異動ということもありますので、組織全体の体制を見ながらになるので、今はっきりと変わりませんとか、変わりますとか申し上げることはできません。申し訳ございません。

山中委員長：ありがとうございました。

今年度は、初めに担当が変わったということとかありましたので、そういうことを踏まえ、今後、市と社協で、話し合っていただけたらというふうに思います。その他いかがでしょうか。

小林委員：　お世話になります。

谷田部東圏域の方では、役職に関係なく、会議のあり方に参加してもらう形をとったというのを記載がございまして、これも大変面白い試みなのではないかなとに思ってお話を伺っておりました。

そうするとこのコアメンバーと、こちらの地域に会議の在り方に参加したいというところでの、ここもうちょっと非常に面白い試みなのではないかというふうに思ったので、この辺りをもう少しお聞きしたいかなと思いまして、すみません時間を気になるところではあるのですが、教えていただければと思いました。

荻生ＳＣ：　谷田部東圏域ではコアメンバーといった人はとっていないのですけれども、地域支えあいサポーター、小学校地域ごとに配置させてい

ただいていまして、地域活動を行かれている方で、前向きな方はここでお願いしている形になります。この方たちと事前に協議をしたり、各地域で何が行われているかというところの情報共有を行ったりしています。

この各地域の状況を踏まえた上で、どのような仕掛けをすれば、協議体での話が進んでいくかというところを考えることができるので、非常にこの支えあいサポーターさんの存在が、コーディネーターにとっては、重要な存在であるかなというふうに考えています。またそこに、椎名さんと佐々木君と前田さんにも入っていただいたりして、この生活支援体制整備事業全体として、この小地域で行われている取り組みはどう一層だったり、市に、伝えていくかっていうことも協議していけるので、この協議体は頻繁にやるものではないので、少しずつ進んでいるところではあるんですけども、そのように、地域の方たちと一緒に協議しながら進めていく取り組みを今後も進めていけたらいいかなというふうに思っています。

前田委員　：市民委員の前田です。

2 層の活動の方も参加させていただいてお話を聞かせていただいて、新しい取り組みに、積極的にチャレンジされた印象を受けました。

今後 2025 年に向けて、これから介護が必要な方がどんどん増えて、来るだろうと。それに対して支える方がどれだけ出てくるかと、担い手の問題が本質だと思いました。

実際に今、ふれあいサロンが 91、新しく立ち上がったのが 11 で、去年と大体同数ということで同じぐらいのパターンという状況だとは思うですけれども、実際これがどんどん全部立ち上がったのはすごいことだと思いますが、これからサロンがどんどんなくな

っていくことが予測されているのか、新規がこれから増えていることが予測されるのか、その辺の見通しがあったら、お聞きしたいなとは思う点が一点です。

あと担い手になる方に対して、支えあい会議に入ったときにネットワークづくりとか仲間づくりが難しいとか、あと居場所をどうするかという、課題みたいなことは、明確なのではないかと思っているんですけれども、例えばそれを全部市の方がやるのは結構無理な問題だとして、例えば、移動では、佐藤さんというスペシャリストの方がいたり、居場所とか空き家に関して強い方がサブ的な形で、ご助言をしてくれて、市の方たちを支えるみたいな形ができないのかなと思います。

山中委員長：この話は２層コーディネーターが答えるよりは、2 層コーディネーターの方はやっぱ先ほどからお話していますけど、伴走なんですよ。だから住民の皆さんが主体的に地域を作ったりということを後押ししているような存在なので、みんなで考えなきゃいけないところです。どう維持していったらいいかという、全部２層コーディネーターの皆さんに言うと無理で、これだけ共通しているであれば一層でもんでいくっていう話なので、私から提案させていただきました。他にもいろいろご意見があるかもしれませんが、場所とかいろんな問題について建設的な話をしたいので、茎崎の小倉さんの方で地域食堂をどれぐらいの頻度で考えているのですかね。月に何回とか。

小倉ＳＣ　：はい、地域食堂について頻度としましては、私の方が大穂で月１の食堂をやったので、そのイメージで月１回やっていければというふうに考えています。

これもやりたいという、ボランティアの方との話し合いの中で月１回がいいのかなというところです。その方は食料の寄付とか、ボラン

ティアは見つかってはいるのだけれども、場所がなかなかというところでお話いただいて、話してはいるのですけども。

土日、例えばいつ行っても夕方やってそうなって子供たちが多くはいれそうながあるところっていうところがなかなかベストなところが今見つかってないというようなところです。

山中委員長：調理場がないといけないところは難しいかもしれませんが。以前、地域密着型サービスの小規模特養とか、地域交流スペースがございまして、そういう活動を受ける場所になっているのです。

そういう貢献をするということは、社会福祉法人は、大事だということになっていて、特に結構精力的に言っていたのが、茎崎のくきの里。特養のイチョウの木に地域交流スペースがあります。ただ、地域交流スペースって言えばいいわけじゃなくて、私、関東全域の地域交流スペースの調査をして「厚生の指標」にも掲載していただいたのですが、まず集まれるということで、駐車スペースがある、それから入居者さんに感染症とかいろんな問題がありますので、入口が別になっている。そういうところでいうと、イチョウの木はとてもいい。

ですので、そういうところなんかも１つのオプションとして考えられるかなというふうに思っています。

すでに、土浦市では、子供食堂をやっているとこがあります。

先ほどの話ですが、高齢者だけで何とかやろうというとこんがらがって。やっぱり子供食堂を手伝っている人がそこにきている人も巻き込んでという感じで、ぜひそういうのを、いろいろ試して、いいのかなというふうに思って情報提供させていただきました。

それから筑波地区の方で難波さんの方で防災のことを、今度イベントされるですけども、これ筑波地区でも意見交換会があって、そういう運営の方、見に行くとか、ご招待するとかネットワーキングをする

ことを考えたとありますか。

委員難波　：特に筑波地区で一応開催するので、筑波地区として防災イベントとか出ていますが、興味のある方はどなたでも受け入れるスタイルではございますので、もちろん宮川とも情報共有しております。

山中委員長：そういうふうに、どんどん横で繋がっていくといいなというふうに思っています。こうやって少し協議体がどんどんできてきているので。というようなことで、ちょっと２つだけ、建設的な話ということでいただきました。その他よろしいでしょうか。

小原委員　：茎崎は会場がない、本当はあるんです。

今日はいい事聞いたなと思う。桜地区も谷田部地区もそうですよ。

学生さんの力はいいことだな、これ非常にいいことだなと。茎崎には学生がいないです。この学生というのは筑波大学生でしょ。

もう茎崎にはバス通りません。その年寄りの中で、参考になるとか。

ごみ出しに困っているから、何とかみんな協力してねというと、そうだね、みんなで協力しようねと拍手は出るけど、あなたもやってねって言ったら、いや、私は忙しい、時間がない、誰も手伝わない。

それで僕言うたのは、なんであのうちがゴミ出しが、大変だとは思ってないんじゃないか。

４人で、土地使っていいわと提案してくれた家庭がある。4 世帯のごみ集積所なんて、できますよ。市が半分負担してごみ集積所作って。そんなふうになるので、困っていることないです。

おかげさまでね、私のところは、ごみ出しが困っている人いませんよ、私の考えでは。

今日皆さんのお話を聞いたら、いいことやっているなと思いながら聞いたけど、正直言ってまだまだ現実問題あるじゃないかと思う。

特に僕のところのようなレベルになりますと、言うは言うけれど、意

味はあるけど、動く人がいないんです。

いいっぱなし、これを何とかしなきゃならん。来年は４月以降、僕も筑波大生に何とか協力してもらおうと考え、よろしくお願いします。

山中委員長：筑波大生にこれを共有しておきたいと思います。

非常に貴重なお話ありがとうございました。

空き家問題ってこれ市で担当していることってどこですか？

事務局　　：住宅政策課というところなります。

山中委員長：真剣にちょっと考えて行きたいと思って、防災のときに市長に新年会のときに申し上げたですけども、一向に危機管理課から連絡は来ません。

危機管理課から連絡させるって言っていましたが。でもこういったことも非常に大事なので。

ありがとうございました。こういう議論をどんどん活発にしていただいて、それらの政策にどうしたらいいかって言っていただけたらと思います。

すいません時間が押してきましたので、続いて、個別のケア会議の報告の方に、移らせていただきたいと思います。

事務局佐野：地域包括支援、個別ケア会議担当させていただいております。

よろしくお願いいたします。

資料３番目をご覧ください。（資料３を元に説明）

山中委員長：それでは時間が短くなってしまって委員の皆様には駆け足で報告していただいたようなことになってしまいましたら申し訳ございません。圏域の包括の方から、説明をお願いいたします。

松原センター長：地域包括支援センターの松原です。筑波圏域を担当しております。

地域ケア会議においては、課題分析において、令和５年度は、多職種

連携、介護力というところが、課題に挙がっていました。

多職種連携、介護の部分については令和 3 年度、令和 4 年度とも同時ありますので、これからこういったことが課題になるのかなと思っております。

クイックケア会議については、課題として、家族関係とか、サービス導入ということが問題になっているのが多いと感じました。

また家族関係に関しては、親子であったり、夫婦間の問題なので、なかなか解決が難しいかなということを感じております。

以上となります。

井ノ口センター長：続いて、大穂豊里地域包括支援センターの井ノ口から報告させていただきます。

先日、４回目の会議が終わりまして、ケアマネジャー、リハビリ職、薬剤師さん、自分のところから地域包括支援センターからの事例提示で４回終了しております。圏域別ケア会議は４回終わっています。

課題としては、やはり普段地域包括支援センターで相談を受けている中で、件数として多くなってきているのが精神疾患を抱えた方の対応は、日々年々増えているですが、そういった精神疾患を抱えた方の支援をしているケアマネジャーさんが、精神科病院、医療機関との連携に課題を感じているというケースが１つあるかなと思います。

身寄りがないケースも増えているんですが、こういったケースの検討もありました。

あと介護者の介護力不足、特に認知症の方の介護者の知識が、不足していたり、介護力が不足していたり感じてしまったりっていうような課題が上がったのが印象的でした。

クイックケア会議とかピックアップケア会議についても、随時声を上げているですけれども、なかなか解決にやはり至らないというケ

ースも多いんですが、私たち地域包括支援センターが、情報を上手に整理をして、どこに、主の課題があるのかというところを見いだして、そこでみんなで話し合うファシリテーション力も必要だなというところも感じています。以上です。

平林センター長：谷田部西地域包括支援センターの平林です。よろしくお願いいたします。

私たちの圏域は３回行いまして、今年度新たに、２回とも事例について公募というか、ケアマネジャーさんに、何か困っているケースはないかということで依頼したところ、２件ほど手を挙げてくださいましたので、そういった事例というところで、お話をさせていただきまして、認知症だったり精神疾患って言ったところの課題といったところで、１つの事例については、地域の方、認定の方のうまくネットワークっていうところで、関わりを作るきっかけができたっていうところでは効果を感じております。

ご家族はいるのですが、日中独居だったりとか、遠方でいらっしゃるっていうところで、日々の生活が、ご家族でしっかりと把握ができていない。物忘れが始まっているけど、いやいや、まだそんなに認知症はないよっていうふうな、認識のずれっていうのはやっぱりあったりするのでそういったところを、どうすり合わせていくかって言ったところが、なかなか大変だなっていうのを感じながら、ケア会議で、多職種で、協議をさせていただいたというところになっております。

各回 20 名前後、参加していただきまして、顔の見える中では、お話し合いができましたので、やはりオンラインとは違う、生の声を、顔を見ながらというのがすごくいいなというふうに改めて思ったところです。

あと、クイックケア会議については、うちの圏域では特に今のところゼロですけれども、その都度ちょっと、私たちのセンターで協議しながらどうしたらいいかなと、協議して進めているような現状です。以上になります。

鬼久保センター長：はい、谷田部東包括支援センターです。

圏域会議については、今年度３回終了しています。内容としては、キーパソンがいない高齢者世帯の問題ですとか、ネグレクトの疑いはあるけれども意思決定者が不在で介護保険サービスの導入ができない。あるいは発達障害のようだけれども両親がケアをしていないケースについてどう対応していただいたかというふうなというテーマでした。

実はこの３つのうち２つが、私どもの圏域にお住まいでない方の事例を検討することになってしまいまして、本当に事例を、ケアマネジャーや薬剤師さんリハ職さんいろんな専門職の方に、ご検討いただいて、支援のための関わりのヒントをみんなで考えるということはできたんですけれども、なかなかこう、圏域にお住まいの方のための会議にはできてないというのは１つ課題となっています。

ただ、横の繋がりを作るという意味では非常に大きな役割を果たしているなというふうには感じていて、実際参加しているケアマネジャーさんたちも、いろんな情報が交換できるよとか、こういう点があるんだっていうことは、メールで仰ってくださっていますね。いろいろな動きをする、情報提供するなどの工夫はさせていただいています。

クイック会議については、今年度はここまでで９件行っています。

特徴的に出てきているのはお子さんが精神疾患や発達障害を抱えている事例が非常に多くて、サービス導入が必要あるいは医療が必要

な状況にあるにもかかわらず、導入が困難になっている事例ですとか、ご自身が適切に判断できないあるいはこだわりがあって、適切に客観的に自分を理解できないことで必要なケアに繋がらないという事例が多かったということがあります。

特にご家族に何らかの障害があるような病気があるときの意思決定の難しさあるいは支援導入の難しさというところでは、非常に先が見えなくて、重層的な支援、障害分野との重層的な形であったりとか、法律関係にも介入をお願いして、解決方法を具体的にご協議いただく機会だったりっていうのは、必要なのではないかなというふうに思っていますが、今現在はなかなか専門職といっても、医療関係の専門職との連携は増えているが、法律関係とか、実際に障害者を支援してくれるような関係者とのネットワーキングはまだまだ足りていないなという印象があります。

クイック会議で検討する事例の特徴ですけれどもケアマネジャーにまだ繋がっていない事例というのが非常に多かった印象です。

実際 9 件の中で、ケアマネジャーにすでに繋がっていた事例は１件だけで、あとはケアマネジャーや介護サービスつなぐまでの調整とか、実際解決に繋がらないまま、今も支援の方向性の調整を随時しながら、抜けているようなケースが多くなっています。

８０５０の特に複合的な課題の事例については、クイック会議でも、もっと多くの職種の方にアドバイスいただけるようになるといいなとやっているところです。以上です。

寺田センター長：桜地域包括支援センターの寺田です。

桜圏域では、クイックケア会議では、現在進行形で、桜圏域のご本人家族知人等が困っていて、支援者側がどう対応していくのが良いか悩んでいるケースであるため、早急に、関係者をつどい、顔の見える

関係づくりを作ることで、また、時には民間だけでなく、つくば市や茨城県内の行政とともに連携することで、よりよい支援に繋がりました。

クイック会議に上がってくる方については、認知症、精神疾患、地域や家族の、介護力低下、家族関係、財産管理、高齢独居の現在進行形の地域課題に直結していることが多いです。

より具体的なことで言えば、焚火がぼや騒ぎとなり、飛び火でやけどを負った高齢独居の方、福島原発事故で避難してこられてきた方の支援、身寄りのない方権利擁護、権利相談、第２号被保険者は、障害福祉と連携支援、８０５０重層的課題を抱えた家族支援などが挙げられます。

圏域別ケア会議については、参加者に職種の偏りが見られることが多く、医療職が少なかったり、参加人数が少ないときには、アセスメントの時間で質問が上がってきません。

一方、参加者が多いときには活発な意見がなされ、さらに、医療職が参加しているときには、多面的なアセスメントに繋がります。

また、より良い圏域会議にするため、最近、他の地域包括支援センターの会議にも参加させていただき、進行まとめ等をいろいろと勉強させてもらっております。以上です。

大塚センター長：茎崎地域包括支援センターの大塚と申します。

茎崎圏域では、圏域別ケア会議、今年度は３回行っております。

ケアマネから挙げていただいた事例、当センターの事例、それから薬剤師の方の事例でございました。

分類といたしましては、多職種連携の課題や介護力の課題、独居、身寄りなしといった課題が多いように感じております。

サービスの利用に繋がらなかったり、閉じこもりでいらっしゃる、家

族関係が悪かったり、あとは精神科に受診させたいとか、老々介護、こういった問題の多くを取り扱いました。

市全体の報告からもありましたが、リモートで開催していたコロナ禍を脱しまして、参集型になっておりますので、顔の見える関係でそれぞれの専門職が集まり、意見を交わし、また横の繋がりが構築できているように感じております。

事例の方でも、例えば印象としては、関係者はもうサービス導入を一致しているんだけども、本人の「まだ大丈夫、サービスはいい」というような利用者、住民の方がいる一方で、家族の助け合いとか役割とか、どこか欠落していて、何とかならないのというようなケースもあるように感じております。

我々、包括支援センターはこの事例に限らず、ケアマネ支援なども大きな役割にあるので、そういう事例を整理して、事例の解決はもとより、ケアマネ支援にも携わっていきたいなと思っております。

あとは、事例から新たな仕組みというか、先ほど小原会長の方からもありましたが、ごみ捨てが困っているという人を、４人集めたら解消できたよというような、例えばこういうヒントを、何か住民の助け合いでやれるところはないのかな、サービス利用だけじゃないところはないのかなというようなところを、今後は、より考えていきたいと思っております。以上です。

山中委員長：それぞれの圏域で抱えている問題とか取り組みとかありがとうございました。

こちらについて、何かコメントとか、質問などございますか。オンラインの皆さんいかがですか？

支援センターの運営協議会で今まで各圏域にメンバー3 人だったところ、４人あげていただいたっていうのがあるですけれども、今のお

話聞いただけでも、本当に見守りのいろんな形態がありますよね。連携と専門性のようなこととかがないと、本当にサービス導入とかがなかなかうまくいかないってことです。そういったような、なんかそう大きいな。そういうふうに思いました。

そういったことでこのダブル会議、早く問題解決しなければいけないのですが、この形態では難しいようなことがこの資料３を見ると、このすべての会議の課題のところに会議の形態を再考と書いてあって、本当に思いが伝わってくるような感じがしております。

来年から分かれて、深く、具体的に、早く、解決に結びついていくような会議になるようにしたいと思っていますし、誰が担うかわからないですけども、していかなくてはならないなと思います。

個別会議の方はこれで、締めさせていただきます。

もう１つ次に報告事項の中で、令和６年以降の議会の実施内容についてです。

事務局佐野：令和６年度以降の２回の個別会議について、それぞれ地域ケア会議、生活支援体制整備推進会議について、説明させていただければと思います。

（当日資料１を基に説明）

山中委員長：ありがとうございました。前回の会議で様々な意見を委員の皆さんからいただいて、その上で検討しました。ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

佐藤委員　：生活支援体制整備推進会議の方で参加者ですけど、参加者の例①2 層の各圏域、市民の代表者複数名、これどういう選出の仕方をするんでしょう。

事務局松尾：ご質問ありがとうございます。

選出の方法に関してはこの事業自体が、住民主体のものということ

で、事業を理解してくださって、今後、一層に参加をしたりと、手あげをしていただくという方法ということで考えています。

具体的に決まっているわけではなく、第２層に今参加されている方で、事業を理解してくださる方に、参加したいと言ってくださる方に参加していただく、各圏域複数名というところで考えているところになります。

佐藤委員：　複数名というのは２名とか３名ではなく決まっていないことですね。選出の仕方として、２層の会議の中で、皆さんから募って、何名か選ぶと言ったら、例えば５人も６人も出られたら困ると思うのですけど、その辺の判断基準を教えてほしい。

事務局　　：ありがとうございます。

複数名というのが何人になるのかというのがまだはっきり決まっているわけではないのですけれども、１人だとその方が休んでしまうとか、意見の偏りが出てしまうこともあるので、大体２、３名を想定しています。

希望者が多いときには固定というよりは流動的に、必ずこの人ではいけないというよりは、いろんな意見を吸い上げることも考えると大体２~３名でイメージをしているところですけれども、その参加者が変わっていくところもあり得るかなと考えています。

山中委員長：昔から、基本的なことは出していたと思うですけど、コーディネーターの皆さん、注文じゃないですけども、要するに２層からこれ出てくる、市民の代表の方が参加するとしたら、３層の意見を束ねられるような、そういう人が望ましいという話だったと思います。

なので、そういうところはちょっと基本として置いておいていただけたらというふうに思うんですが、委員の皆さんどうですか。

佐藤委員　：各圏域の住民の代表者、そこの代表者というのが、その参加者メンバ

ーの中に、今代表者が２層の中には、地域住民の中では誰も決まってない。もう少し明確にした方が住民もわかりやすいじゃないかと。

事務局松尾：ありがとうございます。

代表者が今決まっているわけではないので、イメージとしては、やはり第２層が参加してくださる方で、地域をもちろんわかっていて、みずから一層に参加したいと言っている方、そういった方が 2 層から出ていくっていう意味合いで代表と書いたのですけれども、その認識するのであればそういったところをはっきりとこちらの方でも明確にしていきたいと思います。

山中委員長：地域ケア会議の方は、各圏域のセンターの皆さんこれでよろしいでしょうか。来年以降会議の形態、ちゃんと話し合って、やりとりされているわけですよね。

この会議でクールが終わって、新しい形態で始まるわけですが、会議の前には改めて考えていかなければならない作業が市の方ではあると思います。全体のまとめとして、時間がなくなってしました。どうでしょうか。全体通じてこれは何かとありましたら。

ここのところは会議２時間をもらったんですが、２つの会議を同時にやっていますので、どうしても終わらないことが多かったり、あと何分と考えながら、今日はここでおしまいにしました。何かございますでしょうか。

ないようでしたら、最後ですので、委員の皆様にもご協力いただきましたので、一言言わせていただきたいと思います。

私の方で、追加で厚労省のカラー刷りの、地域包括ケアシステムの姿っていうものを、裏表で１つの資料を作らせていただきました。委員の皆様、それからあとオブザーバーでかかわってくださっているＳＣの皆様とか地域包括支援センター、事務局市の職員の皆様、精力的

に関わっていただいて本当にありがとうございました。

そもそもこの地域ケア会議も地域生活支援体制整備支援、こちらの資料の上の方にあります、住み慣れた地域全体で、住民のサポートフェア、お困り事の解決というようなことを、やっていく地域包括システムっていうための業務の一つの総体です。ちょうどその中央にも、生活支援と介護予防っていうのはありますけれども、住み慣れた地域で、医療が必要だったら医療が受けられる、それから介護ってなったら介護保険で地域密着型ということですけども。

これ以前の問題として住民で、介護予防したりとか、それから生活支援したりとか、それから困ったときには、地域包括の方に相談して、また困難な案件については、地域包括の方で使ってとか、そういったような仕組みを作っている。そういうもの一環として下の方の資料にありますが、全体の包括的支援の事業、その一部として地域ケア会議と生活支援体制整備っていうものがあって、非常に地域づくりに欠かせないようなところを皆さんに、担っていただいたなと思います。

それで、もっとこういろいろ揉んでもらっていないことがあるかもしれませんけれども、ごみ出し支援であったりとか、移動支援であったりとか、そういったようなことが、このクールの中で、形になったというのは非常に本当にご協力がすばらしいことだったと思っています。

裏のページの方に行きまして、今見ていただいた表の上の方にある訪問総合事業ですね。介護予防の生活支援サービス事業、要支援でリスクがある方たちへのサービスの多様なサービスの形態を示したものですけども、多様なサービスに赤線引きましたけど、訪問サービスのＢは住民主体による支援。それから、５番目の訪問型される

ところ、移動支援というのがあるのですけども、こうしたものは、ある意味で生活支援の体制の中で、でき上がってきた、住民の組織、それからこういうリソースってものが上がってるようなもので、ここに結びつけていくっていうことが、非常に厚労省としては大事なこととしているように、来年度以降、それぞれの会議に分かれてきますけども、例えば生活支援体制であれば、１つ共通意識として、リソースっていうものが、こういうサービスとかに上がって結びついていくんだなという意識を持っていくのはすごく大事なんじゃないかなっていうふうには私は思っています。そこがぶれなければすごく政策的にいいものができ上がってくるじゃないか、そういうふうに思っています。

そういう意味で５番のこの移動訪問型サービスの移動Ｄの移動支援のところですが、この会議の中での移動支援、いろいろもんでいただいたものが、これが母体になってＢができていると良いじゃないかと思いますし、そういう意味では総合事業とか、そういった担当者の方が連絡を取り合って、しっかりやっていくのがいいじゃないかなと私自身は思っていますし、そういう意味では、本当に皆さん、すばらしい関わりをしていただいたじゃないかなというふうに思います。

それから自分は委員長としても、皆さんのたくさん意見を言ってくださいって本当にありがたい限りなので、私があまり出る幕はなかったですけども、違う見方をしたらどうなんだろうと、最後に示したかったのが最後のスライドになります。

以前の副委員長の平松さん、ケアマネジャーさんが、持ってきたモデル事例ということで、柏市の社会福祉協議会の生活支援体制の例が出てきました。柏市、本当に２層協議会という中学校地区が最初

様式第１号

１０地域だった、これをやがて 20 地域にふやしていました。
つくば市は広いけど 7 圏域。でも柏市は 10 だったのを 20 にした。何が違うのかなと考えて、どうしてそういうことができるのかと思いました。委員長、もう 7 圏域ですよっていう枠が決められてから、もう引き受けましたので、そういうふうなことは何もできなかった。こういうやり方もあるとかね。
そういうことも自分の方でちょっと考えていくべきじゃないか。
それから、前回も委員の皆さんから意見が出ていましたが、各圏域のリソースをリストにという話があったと思って、これも当初からこういうものを作りませんかってことでこれも平松さんから意見があって、こうしたマップと、それぞれの活動のまとめと、リストになっているのもあると、非常にわかりやすくなると思っていますので、今後できてくるといいなと思っています。
以上生活支援体制整備の方なのですが、一番の最後に弘前市地域包括支援センター（圏域）と書きましたけど、私も 11 月に学会に呼ばれて弘前の方に行きました。そこでシンポジウムに参加したのですが、弘前の地域包括センタースタッフは８人ですよ。つくば市は、もとは 3 人で増やして、４人です。といったら、「4 人でやっているのですか。うちは無理です」と言われました。ですから８人ぐらいいないと、「アウトリーチどうしてるのですか」っていう話なんですけど、「無理ですよね」みたいな話されてう～んって思いました。ですので、他のところで、いい取り組みをしているところを聞いてみて、予算的にも、構造的にも何か手直ししたりとか、今後やっていくといいんじゃないかと思います。引き続きこの会議で呼ばれる委員の方もいらっしゃると思います。市民委員の方はこれ規定で１回だけですよね。ぜひ、２層とか３層の方に行って、活動していた

だいて、それでいい地域を作っていただいて、課題については、１層の方に上げていただいて、このようになってやっていただけたら幸いです。どうもありがとうございました。

但野副委員長：時間見えていますけど、本日でW会議最後ということで、一言述べさせていただきます。私もW会議は６年間携わせていただきました。この間委員の皆様、事務局である地域包括支援課の皆様のご尽力に感謝申し上げたい。

今日最後ということで２つだけお願いがあります。

生活支援体制整備事業で２０２５年の達成目標があるのです。それに向かって、私の方も自分を含む地域住民に関わってくるわけで、住民主体とは言っても、事業を進めるには、予算が必要なんです、お金。少なくとも、この事業の主役は地域包括支援課度と思っています。

2 層コーディネーターの委託業務はもちろん確保していただいていますけど、１つ１つの事業を進めるための、予算というのを、地域包括支援課で確保していただきたいと思います。

お金がないと、やっぱりできないんです、何事も。そこは非常に重要です。もちろん、社協さんとかいろんなところの補助金制度はありますけど、そういうものを選んでいるだけでも、苦労がおおきくなるので。今回の社会資源集をつくるので本当に実感したのが予算をどうやって確保したらいいのかっていう問題で、ぜひ予算というのを、出来るだけ数百万確保していただきたいのがまず１つのお願いです。

２つ目は、この会議の中で全然議論されていませんけど、生活支援体制整備事業を身近に実感できるものに、移動スーパーがあります。

移動スーパーには、生活支援体制整備事業の１つの売りで、買物難民が増えている中で、移動スーパー、カスミさんが来て売れているということで、非常に助かっているとの声をいただいています。

ぜひ市内の必要がある地域にさらにきめ細かくこの移動のスーパーのネットワーク構築を進めていっていただきたいということの２つ目、お願いですけど、この点をよろしくお願いします。

ありがとうございました。

山中委員長：ということで、事務局にお返ししたいと思います。

事務局相澤：副委員長ありがとうございました。

それでは本日はお忙しい中、皆様、長時間にわたりどうもありがとうございました。

平成 28 年度から実施していました、つくば市ケア会議及び生活支援体制整備推進会議ですが、これまで皆様に多大なご尽力いただきまして、地域ケアシステムの構築を目指し、多様な地域課題について、様々な議論をしてくることができました。

この間、２回の大きなフォーラムを開催することができ、また、令和４年度からは、地域課題について、具体的な方策につなげるべく、ごみ出し支援と移動支援について、深く協議し、ごみ出し支援の提言書の提出、そして移動支援セミナーの開催という大きな成果に繋がったと思います。

このようなことができたのも、山中委員長、但野副委員長をはじめ、これまでの委員の皆様、そして第２層生活支援コーディネーター、地域包括支援センターの皆様に、真摯に取り組んでいただいたからにほかなりません。

本会議は今年度、本日終了となりますが、今後も地域ケア会議と第１層の会議は別個に開催され、地域課題の議論を深めたり、住民主体の支え合いの仕組みづくりを支援していく予定です。

今後も皆様には、地域で活動をされる中で、また、専門職の立場からのご意見をいただいたり、ご協力いただいたりすることもあるかと

様式第１号

思います。

その際にはどうぞよろしくお願いいたします。

本当に皆様の様々なご意見いただきまして、誠にありがとうございました。

それでは以上で閉会とさせていただきます。

皆様ありがとうございました。

令和５年度
第４回つくば市地域ケア会議
第４回つくば市生活支援体制整備推進会議　次第

日時：令和６年(2024年)２月８日（木）
13時30分から15時30分まで
場所：つくば市役所　<u>会議室203</u>

１　開会【13:30～13:35（５分)】

２　議事【13:35～15:20（１時間45分)】

時　間	議　事	内　　容	資料番号
13:35-15:05 (90分)	(1)報告事項	ア　R5 つくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議総括 イ　R5第２層生活支援体制整備事業総括 ウ　R5地域ケア会議総括 エ　R6以降の２会議の実施内容について	資料No.1 資料No.2 資料No.3 当日資料
15:05-15:15 (10分)	(2)まとめ	ア　まとめ	
15:15-15:20 (５分)	(3)その他	ア　その他	

３　事務連絡【15:20～15:30（10分)】

４　閉会

メモ

つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議
会議員（委員）名簿

〇委員長
△副委員長

任期：令和４年(2022年) ７月１日から
令和６年(2024年) ３月31日まで

No.	所　属　団　体　等	役　　職	氏　　名	分　野
1	つくば市医師会	会長	成島　　浄	医　療
2	つくば市理学療法士会	副会長兼事務局長	下村　哲志	医　療
〇3	筑波大学	筑波大学人間系 （障害科学域） 准教授	山中　克夫	学識経験者
4	つくば市区会連合会	副会長	小原　正彦	住民団体
5	つくば市民生委員児童委員連絡協議会	茎崎地区会長	北島　正義	住民団体
6	つくば市シルバークラブ連合会	副会長	石塚　一夫	住民団体
7	つくばケアマネジャー連絡会	副会長	海老原　良之	介　護
8	茨城県看護協会	管理者	小林　路江	介　護
9	つくば市特別養護老人ホーム連絡会	会長	今髙　哲生	福　祉
10	つくば市社会福祉協議会	地域福祉推進室長	大橋　功	福　祉
11	NPO法人	NPO法人友の会たすけあい 理事長	佐藤　文信	NPO法人
12	一般企業	株式会社カスミ 営業統括本部	黒田　一路	企業
△13	地域活動実践者		但野　恭一	地域活動実践者
14	地域活動実践者		椎名　清代	地域活動実践者
15	市民委員		水谷　浩子	市　民
16	市民委員		前田　亮一	市　民
17	市民委員		佐々木　湧人	市　民
18	市民委員		根本　けい子	市　民
19	市民委員		福井　正人	市　民
20	市民委員		白石　通	市　民

つくば市地域ケア会議及びつくば市生活支援体制整備推進会議参加者名簿 （地域包括支援センター、第２層コーディネーター、事務局）			
21	筑波地域包括支援センター	保健師	戸塚　啓子
22	大穂豊里地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	井ノ口　美樹子
23	桜地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	寺田　隆則
24	谷田部東地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	鬼久保　しのぶ
25	谷田部西地域包括支援センター	センター長 主任介護支援専門員	平林　康行
26	茎崎地域包括支援センター	センター長 社会福祉士	大塚　俊実
27	つくば市社会福祉協議会 第２層コーディネーター	統括係長 筑波圏域担当	難波　聡子
28	つくば市社会福祉協議会 第２層コーディネーター	大穂圏域担当	大塚　建吾
29	つくば市社会福祉協議会 第２層コーディネーター	豊里圏域担当	長岡　由佳
30	つくば市社会福祉協議会 第２層コーディネーター	谷田部東圏域担当	荻生　奈苗
31	つくば市社会福祉協議会 第２層コーディネーター	桜圏域担当	宮川　洋大
32	つくば市社会福祉協議会 第２層コーディネーター	谷田部西圏域担当	堤　あいか
33	つくば市社会福祉協議会 第２層コーディネーター	茎崎圏域担当	小倉　貴之
34	事務局	地域包括支援課 課長	相澤　幸子
35	事務局	地域包括支援課 課長補佐	飯島　良弘
36	事務局	地域包括支援課 保健師長	川崎　博子
37	事務局	地域包括支援課 社会福祉士	松尾　智美
38	事務局	地域包括支援課 保健師	佐藤　美保
39	事務局	地域包括支援課 社会福祉士	佐野　悠
40	事務局	地域包括支援課 主任	宮　亜弓
41	事務局	高齢福祉課 係長	石川　寛央
42	事務局	高齢福祉課 主事	川上　由利子

令和5年度第1層生活支援体制整備事業及び地域ケア会議実績報告

資料NO.1

事業の目的	**□生活支援体制整備事業** 令和7年（2025年）の地域包括ケアシステム構築の完成を目指し、住民主体の活動、多様な主体による多様なサービスの提供体制を構築、互助を基本とした高齢者を支える地域の支え合いの体制づくりを推進すること **□地域ケア会議** 地域に共通した課題を明確化するとともに、共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげ、地域ケアシステムの構築を図ること

		令和5年度実施内容	成果	課題
生活支援体制整備事業	全体	**1 つくば市生活支援体制整備推進会議（第1層協議体会議）の開催** 会議を4回開催。タスクフォースを形成し移動支援の解決について具体的な協議を行った **2 第1層（市）と第2層生活支援コーディネーターの情報共有** 月1回、市と2層SCとのミーテイングを施行し課題の協議、情報共有および方向性の確認を行った **3 広報活動** 民生委員協議会等で、事業の取り組みについて広く周知した **4 担当各課との連携** 地域課題について関係各課（高齢福祉課、環境衛生課、総合交通政策課等）と情報共有、課題解決の協議を行った	**1 移動支援の課題の解決に向けて協議** タスクフォースを中心に、会議委員と相談しながら移動支援セミナーを企画、実行することができた。 **2 関係各課と連携、協働** 当事業を周知し、課題について協議し、協働して地域課題に対する取り組みを行うことができた。	**1 各圏域の地域課題を把握し、第1層協議体で引き続き検討していく必要がある。** **2 民生委員、区会のほか、一般市民を対象に事業周知、広報を継続する必要がある。** **3 地域課題に関係する各課と情報共有や競技を継続する必要がある。**
	移動支援課題	**1 セミナーの実施** 令和5年7月29日に高齢者等の移動支援セミナー実施。84名が参加者し、移動支援の現状や活動団体の状況について聞き、各地区で移動支援を立ち上げるきっかけとなった。 **2 タスクフォースの活動** 高齢者等の移動支援セミナーの実施を計画、タスクフォース会議を9回実施し協議をや準備を行い、セミナー当日の進行等を行った。 **3 実態調査** セミナーに向け、移動の課題に対する生の声を吸い上げるため、ケアマネジャーと訪問看護師へ移動支援の実態調査アンケートを実施した。	**1 移動支援セミナー実施を計画できた** 現状の課題共有と担い手育成につなげる方策を協議することができた。 **2 実態把握** セミナーに向け、実態把握を検討した	**1 小地域での移動支援勉強会等の実施** 小地域単位で、勉強会や小セミナーを実施することで担い手づくりにつなげる **2 相談窓口の設置** 移動支援に携わりたい方を団体につなぐ **3 団体一覧の掲載** セミナーで作成した団体の活動一覧をホームページ等に掲載し、活動促進につなげる
地域ケア会議	全体	**1 圏域別ケア会議の実施** 6圏域で開催し、個別事例の解決に向けた検討を行った（R5年度計24回予定）。 事例は介護支援専門員、リハビリ専門職や薬剤師から提出し、多職種で意見交換することができた。 **2 自立支援型個別ケア会議の実施** 介護保険更新認定等の際に状態像が悪化したものについて、自立支援・重度化予防の観点に基づいた検討をおこなうことができた（R5年度計9回予定）。 **3 ピックアップケア会議の実施** 個別ケア会議では解決しない、在宅医療・介護連携、自立支援等のケースを協議することができた（R5年度計2回）。	**1 個別課題の解決と課題の抽出につながった** 個別課題の協議ができ解決の一助となった。また共通した課題を明確化することができた **2 ネットワーク構築** 多職種で協議することにより、圏域内でのネットワーク構築につながった	**1 ケア会議形態の検討を行う** より個別事例の解決に効果的な検討がおこなえるように、ケア会議の形態を再考する必要がある **2 地域課題を分析する必要がある。** 積みあがった事例をもとに、関係職種と協働し、地域課題を分析する。
	ごみ出し支援課題	**1 提言書の提出** これまでの会議で検討してきた「高齢者のごみ出し支援に関する提言書」を令和5年10月20日に市に対し提出。 2 **タスクフォースの活動** 令和4年に実施したごみ出し支援の実態調査等をもとに、提言書の内容を協議した。 環境整備、助け合いの体制づくり、対応の周知、戸別収集の体制構築の4点についてまとめた提言書を作成した。	**1 提言書を提出することができた** 環境整備、助け合いの体制づくり、対応の周知、戸別収集の体制構築の4点についての提言書をを提出した。取り組み推進の一助となった。 **2 具体的取り組みの推進につながった** 提言書を受けて、戸別収集に向けてのアンケート調査の実施など、具体的な動きにつながった	**1 提言内容を実現** 今後は、具体的な取り組みに向けて、関係各課との連携について、検討をしていく必要がある。

令和5年度第２層報告

活動の様子を写真で報告

①広報活動

地域のイベント

花畑フローマーケット

⬆ 年4回の広報誌

事業周知リーフレット ➡

②地域支えあい会議

↑桜圏域地域支えあい会議

↑谷田部東圏域地域支えあい会議

← 筑波圏域地域支えあい会議

③つくちゃん地域支えあい助成事業

↑メゾンヴェールふれあいサロン
（ミニふれあいサロン・谷東）

↑本金村ミニふれあいサロン
（ミニふれあいサロン・豊里）

↑富士見ヶ丘つながりNET
（お弁当配布を通した見守り・谷西）

④ふれあいサロン

ふれあいサロン前期情報交換会↑

← キラリ会（大穂圏域）

くきざき広場活動状況（茎崎圏域）→

ふれあいサロン秋桜（大穂圏域）↑

⑤地域見守りネットワークの推進

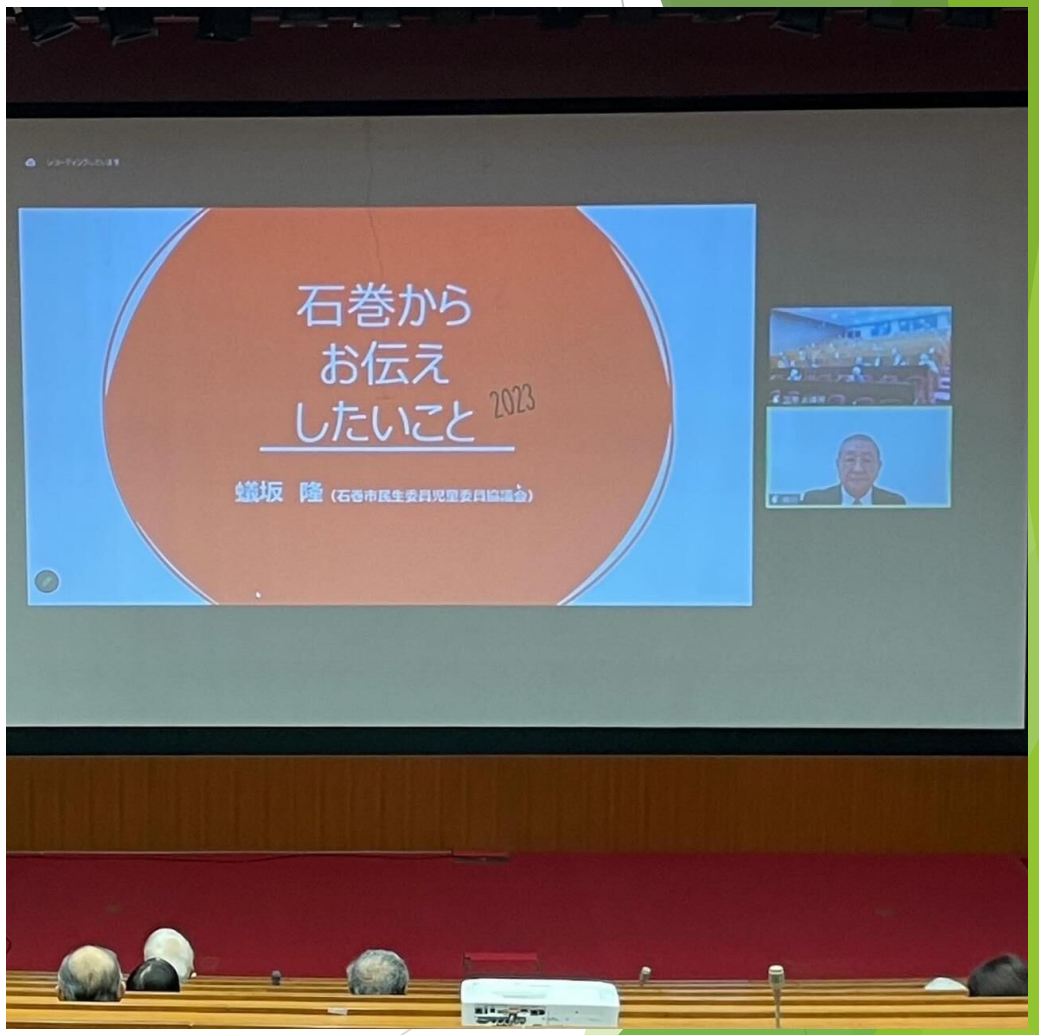
↑栄小学校区ネットワーク会議
（桜圏域）

↑ふれあい相談員
委嘱式・研修会

北条小学校区ネットワーク会議 →
（筑波圏域）

⑥テーマ別情報交換会

第１回　食を通した支援



第２回　防災（zoomによる講演）

⑦コーディネーターのスキルの向上

「地域福祉アドバイザー」による研修や生活支援コーディネーターへのアドバイス！

筑波圏域

●地域支えあい会議の意見を形に！！

「筑波地区　防災イベントの開催」

★9/27 第1回地域支えあい会議
において課題を共有

・防災に関する不安と関心
・多世代間の交流の減少や
世代による考え方の違い

★第１回防災イベント作戦会議
（10/26　開催日時、目的、内容の検討）

★第2回防災イベント作戦会議
（11/22　開催要項、イベント内容会場配置の
検討、協力機関の状況共有）

★第3回防災イベント作戦会議
（12/19　開催要項決定、イベント内容決定　チラシの検討、体験内容の共有）

2/18開催
※チラシ参照

★1/23 第2回地域支えあい会議において
内容共有とﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑやｱﾝｹｰﾄについて意見交換

筑波地区

- 「小田いきいき会議」新たな取り組みの支援

↑見守り部会の立ち上げ

↑プレ防災講座の開催

↑自動追従ロボット
実証実験の実施

大穂圏域

支えあい会議

吉沼小学校区
社会資源集☞

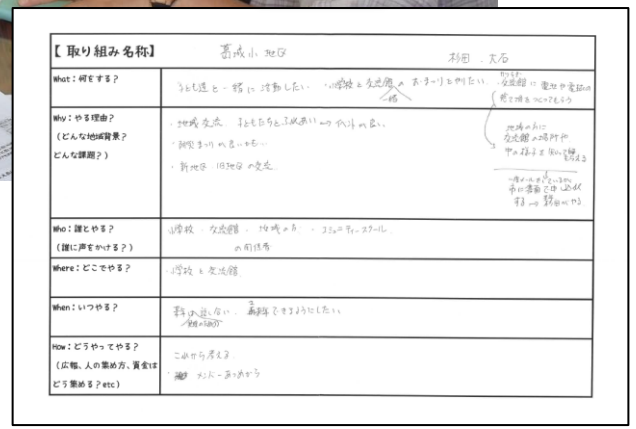
玉取地区
三世代交流夏祭り

豊里圏域

↑支えあい会議
→コアメンバー会議
↗とよさと子どもまつり

谷田部東圏域

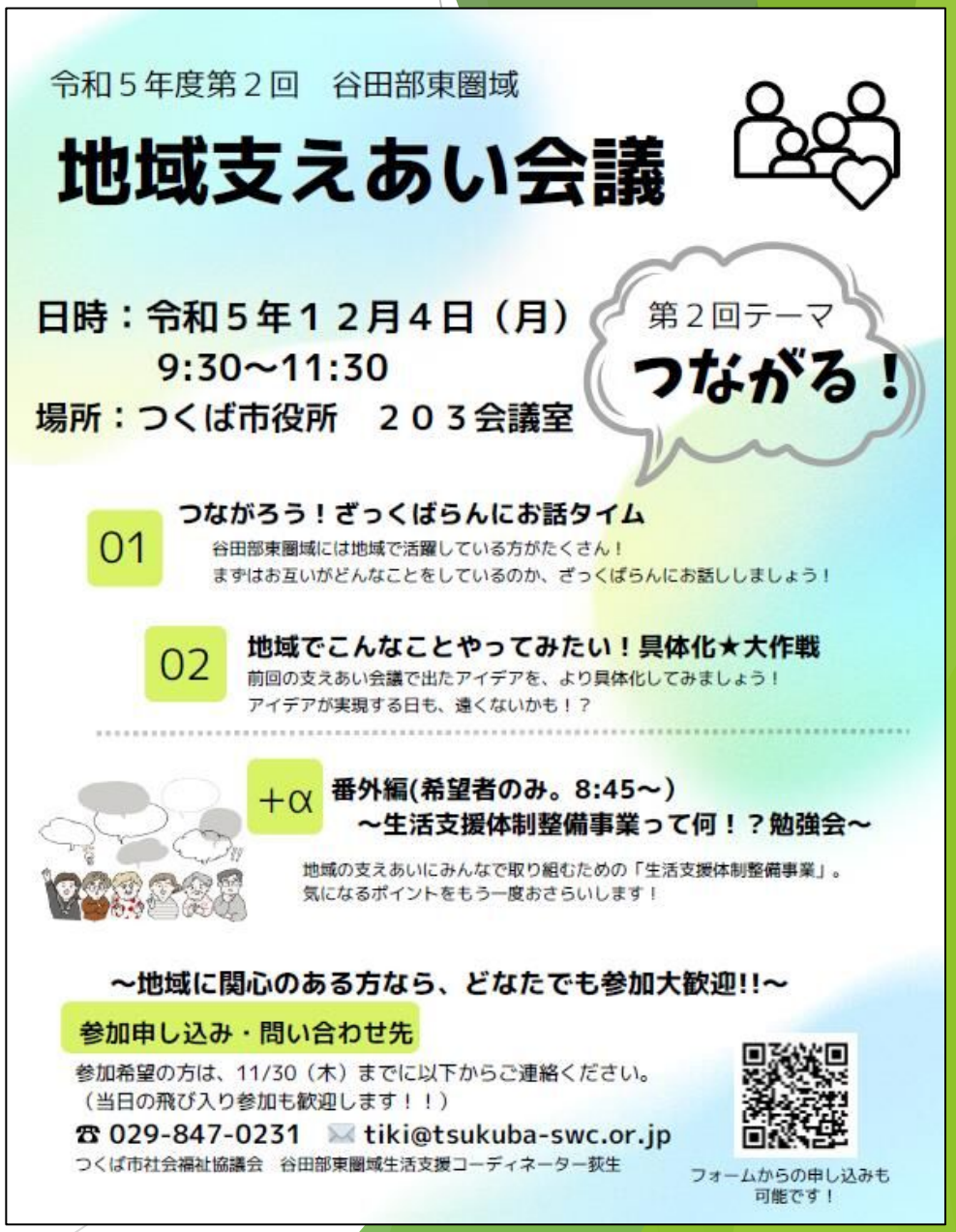
①第２層協議体の住民主体化



【取り組み名称】

What：何をする？	
Why：やる理由？（どんな地域背景？どんな課題？）	
Who：誰とやる？（誰に声をかける？）	
Where：どこでやる？	
When：いつやる？	
How：どうやってやる？（広報、人の集め方、資金はどう集める？etc）	

地域でやりたいこと！
具体化シート ➡



令和５年度第２回　谷田部東圏域

地域支えあい会議

日時：令和５年１２月４日（月）
9:30～11:30
場所：つくば市役所　２０３会議室

第２回テーマ
つながる！

01　つながろう！ざっくばらんにお話タイム
谷田部東圏域には地域で活躍している方がたくさん！
まずはお互いがどんなことをしているのか、ざっくばらんにお話ししましょう！

02　地域でこんなことやってみたい！具体化★大作戦
前回の支えあい会議で出たアイデアを、より具体化してみましょう！
アイデアが実現する日も、遠くないかも！？

＋α　番外編(希望者のみ。8:45～)
～生活支援体制整備事業って何！？勉強会～
地域の支えあいにみんなで取り組むための「生活支援体制整備事業」。
気になるポイントをもう一度おさらいします！

～地域に関心のある方なら、どなたでも参加大歓迎!!～

参加申し込み・問い合わせ先
参加希望の方は、11/30（木）までに以下からご連絡ください。
（当日の飛び入り参加も歓迎します！！）
☎ 029-847-0231　✉ tiki@tsukuba-swc.or.jp
つくば市社会福祉協議会　谷田部東圏域生活支援コーディネーター荻生

フォームからの申し込みも可能です！

谷田部東圏域

②住民主体の支えあい活動の立ち上げ支援

②-1　松代ぷらっと（松代交流センター）

②-2
けんがくふらっとカフェ（研究学園地区）

谷田部西圏域

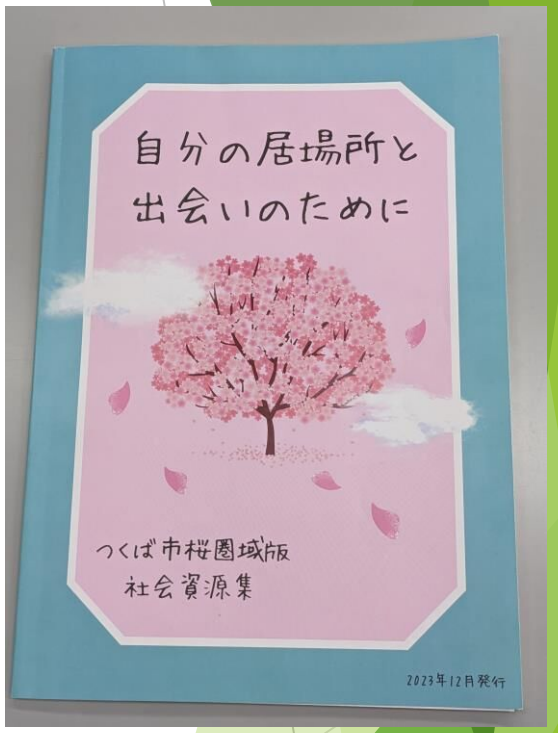
↓第１回地域支えあい会議

↑子どもたちとシルバークラブの世代間交流

桜圏域

↓桜圏域版社会資源集作成会議（住民主体活動を支援）

↑桜圏域地域支えあい会議
（サロン代表による事例発表）



↑桜圏域地域版社会資源集

春風台サロンクリスマス会
（区会多世代交流イベント）→

茎崎圏域

茎崎圏域地域支えあい会議
（宝陽台地区の事例発表）

茎崎ボランティア
ふれあい交流会

あしび野地区
揚げ物会

第2層　生活支援体制整備事業 実績報告（令和5年度総括）

資料NO.2

	取組内容	成果	来年度に向けて
全体	①事業の周知・広報 ＊Instagramによる情報発信 ＊広報誌「支えあいつくば」の発行 （7圏域×4回、全域×2回） ＊令和5年度版 事業周知リーフレットの作成 （3,000部） ＊イベント等での事業周知　（10回） ＊区会、民協、会議等での事業周知	①子育て関係のイベント等での事業案内を行い、若い世代にも事業を知らせる機会を持つことができた。 ＊会議等で事業説明を行うことで、会議出席者の区会等から事業説明の依頼をいただく機会ができた。	
	②地域支えあい会議の開催 ＊14回の開催（7圏域×各2回）	②一部の圏域で開催方法や参加呼びかけ等を工夫した取り組みに挑戦することができた。	
	③つくちゃん地域支えあい助成事業の推進 ＊12活動への助成 （立ち上げ：2，運営：6、ﾐﾆｻﾛﾝ：4）	③助成金により、活動の後押しができた。	
	④ふれあいサロン事業の推進 ＊登録団体：91団体（新規：11団体） ＊ふれあいサロン情報交換会の開催（2回）	④地区ごとの情報交換の機会を持ち、お互いの取り組みを参考にしたり、得意なメニューを教えに行くなどサロン間の繋がりができた。	・圏域によっても地域性や住民の考えにも違いがあるため、それぞれの地域の良さを大切にし、皆さんの思いに寄り添った支援を進めていく。
	⑤地域見守りネットワークの推進 ＊ふれあい相談員による見守り活動 ＊小学校区単位等での地域見守りネットワーク会議の開催（7圏域：35回） ＊地域の絆フォーラム2024の開催 （2/19実施予定　※チラシ参照）	⑤見守りにより気づきのあった課題ケースの検討や対応など、専門機関と連携し対応を進めることができている。 ・事業理解推進のため小学校区単位等で住民の話を伺う機会を持つことで、地域の雰囲気や地域活動の取り組みに対する考えなどを知ることができた。	・今後も住民主体の支えあい活動の立ち上げや運営を、地域の声やニーズに合わせてSCが伴奏型で支援を継続していく。 ・SCや社協に気軽に相談できるような関係づくりに努め、地域からの信頼が得られるよう心がけていく。
	⑥テーマ別情報交換会の開催（3テーマ） ＊食を通した支援活動（10/6：11名） ＊防災に係る活動（11/20：43名） ＊子ども子育て支援活動（2/27実施予定）	⑥同じ志や関心のある人たちが集まる機会を作ることで、地区を超えた横の繋がりを持つきっかけを提供することができた。	・様々な課題や困りごとを地域の皆さんと検討していくために必要な情報の収集や共有を強化する。
	⑦コーディネーターのスキルの向上 ＊地域福祉アドバイザーによる助言・勉強会 （年12回：田園調布学園大学教授） ＊2層SCミーティングの開催（年24回） ＊各種研修への参加（7種　延べ13名）	⑦SCとして迷いや悩みも多いため、アドバイザーの客観的な意見を参考に考えを深め、アドバイスにより自信を得て取り組みを行っている。	・今年度種をまいたものが芽を出せるよう一丸となって取り組んでいく
	⑧関係機関との連携強化 ＊1・2層SC情報交換会（年13回） ＊圏域別ケア会議への出席 ＊市関係課、関係機関との情報共有 （市民協働課、科学技術戦略課、危機管理課等）	⑧地域活動を進めるうえで、市や専門機関の助言・協力・連携があることで事業を円滑に進めることができている。	
	⑨地域活動の支援と各事業を通じての情報の収集、相談対応 ＊地域で行われる活動の継続支援 ＊困りごとや相談の対応、情報提供 ＊課題解決や連携強化のためのコーディネート	⑨コーディネーターが変わった地域においても、徐々に関係づくりができ相談等が増えている	
筑波	①地域支えあい会議の開催 ・第1回　9／27　共通課題の抽出等 ・第2回　1／23　イベント実施の内容検討・確認 ②筑波地区「防災イベント」の開催 （2/18開催予定 ※チラシ参照） ・開催に向けた作戦会議の開催（3回） ・民生委員や地域関係者への協力呼びかけ ・シルバークラブや秀峰義務教育学校等への参加呼びかけ ③小田いきいき会議（第3層協議体）活動支援 ・全体会議、各部会での話し合いの実施 （全7回－全体：1回、防災：3回、見守り：3回） ・新たな見守り部会の立ち上げ ・プレ防災講座の開催（11/29） ・自動追従ロボット実証実験の実施 （12/11～2/29）	①9月の意見をきっかけに事業実施につなげることができ、その場の話し合いだけではなく形として積み上げることができた。 ②地域支えあい会議で意見やアイデアを出し合うだけでなく、その意見を元に事業実施の目標を持ち実施に向け地域住民で検討することができた。 ・打合せを重ねるごとに協力者が少しづつ広がり、地域のための話し合いを行うことができた。 ・参加や協力など関わり方は様々ではあるが、幅広い世代の方に事業の呼びかけを行う機会を持つことができた。 ③昨年度までは会議の進行や説明をSCが全て担っていたが、今年度より住民が役割を持つ機会を取り入れ話合いを進めることができた。 ・見守り部会の立ち上げにより、日頃からの繋がりの強化や小田地区で最期まで生活していくために必要なことを住民が意識し考えるきっかけを持つことができた。 ・プレ防災講座を区長に受講してもらうことにより、各区会住民単位で防災意識を高める取り組みを検討いただくきっかけを持てた。	・昔からの地域の繋がりが残る地域性を大切にし、新たな仕組みづくりの強化ではなく、今ある繋がりや地域の活動が継続していけるよう支援していく。 ・今年度の「防災イベント」のように、出された意見を形にできるよう、話し合いの意見を大切にしていく。 ・地域の困りごとと特技を持つ活動者を繋ぐコーディネートの機会を増やしていけるよう地域住民が相談しやすい関係づくりに努める

大穂	①吉沼小学校区社会資源集の作成・発行 ・社会資源集メンバー会議の開催、掲載内容の確認 ・掲載団体等との調整 ・配付活動、広報活動 ②コアメンバー会議の開催 ・年度内2回開催（9/14、12/21） ③地域支えあい会議の開催 ・年度内2回開催（9/28、2/2） ④「集いの場」新規立ち上げ支援 ・つくちゃん助成金（立ち上げ） 「上町・大坪見守り倶楽部」 ・ふれあいサロンの立ち上げ 「キラリ会」、「ふれあいサロン秋桜」 ⑤圏域内の活動・取り組みに対しての支援 ・地域イベントの協力（事業紹介や福祉相談への対応など） ・地域交流事業の相談対応、助成金等の支援 ・地域内の話し合いの場（会議）での事業説明 など	①前年度の支えあい会議から出た要望である「地域資源の見える化」について、吉沼小学校区のメンバーが中心となり検討を重ね、要望を形にすることができた。地域資源の把握ができ、資源集を通して地域住民・団体同士がつながる一助になる取り組みとなった。 ②「地域支えあい会議」について、会議の内容・方向性をコアメンバーと協議した。支えあい会議が、有意義で住民の望む形になるよう、コアメンバーから多くの意見を出していただいた。その意見を取り入れた「支えあい会議」にすることができた。 ③1回目に「地域にある集まり」について話し合い、2回目に「その集まりを活用し広げていくために、どのような取り組みをしていくか」について話し合いを行った。地域資源の掘り出しとその資源の活用方法について、地域の意見を聞くことができ、今後の取り組みにつながるものとなった。 ④地域内の「集いの場」として、新たな資源の創出となった。立ち上げに際して、調整・支援を行ったことで、団体との関係性も構築できた。 ⑤地域活動・取り組みに参加できたことで、住民主体活動の把握ができた。また、それらの地域活動や住民同士の関係性を広げる支援ができた。	・会議等で出た課題や取り組みたいことについて、出来ることから具体化に向け伴走支援していく。 ・地域のつながりの継続や今後の担い手について、どのように取り組みをしていくか話し合いをもちたい。
豊里	①豊里圏域地域支えあい会議（2回） ・第1回　9／13 ・第2回　2／14（予定） ②コアメンバー会議の開催（3回） ・第1回　8／22 ・第2回　12／13 ・第3回　1／17 ③とよさと子どもまつりの開催（11／11） ・実行委員会（4回） ④会議等を通じて地域活動の状況把握と圏域全体への情報発信 ⑤歳末事業、ふれあいサロン立ち上げについての相談対応	①地域支えあい会議を開催し、事業推進への理解を深めるとともに地域間の課題の共有や地域の魅力の発見と共有をすることが出来た。 ②コアメンバー会議を開催し、方針についての検討を行った。そのことにより、SCが主導するのではなくより地域住民が具体的に問題や課題を捉えられるようにメンバー内での意見の共有が図れた。また、地域支えあい会議の具体的な方針を決定するすることが出来た。 ③地域関係者による実行委員を編成し、実行委員会を開催したことで地域住民が気軽に参加できるとよさと子どもまつりの実施に至った。多くの来場者とボランティア等地域住民たちとの交流がなされ、地域関係者の活力を感じるとともに、他の取組みへの協力体制を築くことが出来た。 ④各種会議の開催や事業説明を通じて、個別の相談対応を行ったり、情報収集を行ったことで、より細かな地域の状況把握につながり、課題解決に向けたチーム編成や、ささえあいつくばでのポジティブな情報発信をすることが出来た。 ⑤歳末事業の申請相談やふれあいサロンの立ち上げ相談等を行い事業の実施につながった。	・社会資源の更なる共有と活用についての具体的な人材確保などを目指し、地域での協力体制を築けるよう橋渡しをしていく。 ・地域関係者等による協力体制をより強くするために、新たな人脈や、世代を広げるなどの必要がある。 ・事業や助け合いを必要としていない地域に向けて興味関心を持って貰うための取り組み等を検討していく。
谷田部東	①第2層協議体（地域支えあい会議）の住民主体化 ②住民主体の支えあい活動の立ち上げ支援 ②-1　松代ぷらっと(R5.6～) （交流センターを活用した集いの場） ②-2　けんがくふらっとカフェ（R5.10～） （民間企業、行政との連携） ②-3　メゾンヴェールふれあいサロン(R5.11～) （他の福祉事業との連携）	①第2層協議体を住民主体化を目指し、会議の内容・開催の形式を今年度より大きく変更した。具体的には、「役職に関係なく、地域に関心のある方に参加してもらえる形をとる（ハガキ等での出席依頼をやめ、チラシを用いて口コミで参加者を増やす）」「住民の立場の方（＝地域支えあいサポーター）に協議体の運営の協力を得る」「地域住民自身がやりたいことのアイデアを出し合い、実現につなげるような内容とする（関係者同士の交流、グループワークやアイデア出しを中心とした協議の場とする）」などである。本年度は2回開催し、これまでとは違った形でより住民主体に近い形で協議体を開催することができた（8/8、12/4）。また各小学校区ごとに地域でやりたいことのアイデアを出し合い、具体化する流れが出来つつある。 ②今年度は他機関との連携を意識し、住民主体の支えあい活動の創出を行った。 ②-1）月1回交流センターの和室を使用し、自由な形の集いの場を開催している。今後、「松代地区を誰もが住みやすい地区にするために」というテーマで話し合いを進めることになった。 ②-2）地域住民が主体となり、地域包括支援課（認知症施策係）とスターバックスと協働し集いの場を月1回実施している。研究学園地区で住む住民同士のつながりづくりの場になっている。 ②-3）日常生活自立支援事業の関わりから、マンション内の集いの場づくりに発展した。つくちゃん地域支えあい助成金を活用し、今年度中に3回開催した。	①今後の課題としては、出たアイデアをどう各地域で具体化・実現していけるかである。これについて支えあいサポーターとも協議し、来年度以降の協議体では「地域活動の進め方を専門的な立場の方からレクチャーをもらい、実際の活動に活かす」「各地域で出たアイデアについての進捗状況を、協議体の中で共有する」などを行っていくことが決まっている。 ②来年度以降も、他機関との連携の中で支えあい活動を創出していくことを意識したい。市役所の関係各課や民間企業などとも積極的に連携を図っていけるようにしたい。また立ち上げから数年経った団体・活動に関しても、継続する中で生まれた新たな課題に直面している団体もある。（集いの場を作っても来られず地域の中で孤立している人がいる、来たくても足がない、等）。課題に解決に向けた取り組みについて、住民とともに考え、必要な資源や関係機関とのつなぎを丁寧に行っていく。
谷田部西	①谷田部西圏域支えあい会議（2回） ・第1回　8/31　テーマ「通いの場」 ・第2回　2/20　開催予定 ②コアメンバー設置 ・コアメンバーの選出 ・コアメンバー会議（2回） 第1回　11/30　テーマ「社協とは」「コアメンバーとは」 第2回　1/25　開催予定 ③地域団体との連携 ・カーレットを通した香取台小学校児童クラブの子ども達と地元シルバークラブとの交流（11/13） ④地域活動（新規・既存）の支援 ・ふれあいサロン新規登録 ・真瀬見守る会の再始動	①　支えあい会議の打合せや当日発表を通じ、小地区の現状を把握できた。会議では各グループの報告では、集まる場所がない・高齢化によって集まることすら難しいという話や、「通いの場を立ち上げやすくするには」という問いに対して、地域活動をたくさんやっている方がグループ内に多く、新しいことを始める余裕がないといった住民の声を得ることができた。 ②　今年度担当が変わったため、コアメンバーの設置によって、地域情報を集める仕組みづくりができた。また、今まで支えあい会議に参加していなかった方もコアメンバーに入っていただいているため、様々な立場からの意見を聞くことができている。 ③　世代を超えた交流の機会を持つことができた。さらに、今後世代間交流を行う上での足掛かりとなった。 ④　地域のサロンや団体へ地域活動の支援を行った。打合せ等で顔を合わせる機会があることや団体からの依頼で連絡調整を行うことにより、地域住民の方や地域活動関係者との関係構築につながった。真瀬見守る会については、今後イベントを行う方向で支援を行っている。	・登録サロンや地域活動の枠を超えて、様々な集いの場やコミュニティに訪問していきたい。特に、現在働いている人や学生（いわゆる「担い手」世代）と関わる機会が少ないため、それぞれが求めている繋がりの形が想像しにくい部分があるため、様々な活動団体と関わっていきたい。 ・コアメンバーの方と一緒に、地域のことを考え支えあいの創出を考えていく。

桜	①第2層協議体（地域支えあい会議）の開催(2回) ・第1回　8／29 ・会議の方向性や内容を決定（3回） ・地域活動者への事例発表依頼、調整（2回） ・第2回　2／16 開催予定 ②桜圏域版社会資源集作成の支援 （住民主体活動） ・資源集作成会議参加（4月～1月・13回）。 ・社協が把握している資源（サロン・シルバークラブ・ボランティア団体など）の情報提供。 ・学生ボランティア団体の紹介。 ・広報協力：社協広報誌支えあいつくば（2023/11月号・2024/2月号）。社協SCインスタグラム。 ③栗原・栄地区防災意見交換会の開催 （12/4・1/17） ・桜川近隣の2地区の区長、民生委員に呼びかけ。 ・各地区の状況確認。 ④地域歳末助けあい事業の相談対応 ・春風台サロンが主催となり、区会イベントを開催。 ・助成金申請手続きの対応。 ・イベント内容打合せ会議実施（2回）。	①・住民主体の会議に近づけるために、地域活動者に協力を依頼。地域で行われている活動を事例発表にて知ってもらうことで、より身近な会議であることを伝えられたと思う。 ・今回の会議で得たヒントを自分の地域に持ち帰り行動してみようという感想も多く頂けた。 ②・住民主体で取り組んできた、桜圏域版社会資源集の作成に伴い、圏域資源についての情報提供や学生ボランティアの紹介などで関わることができた。 ・学生との関係も構築することができ、若者のアイディアや技術は今後とも大きな力となると感じた。 ・資源を見える化した冊子により、地域住民が自立し、自分らしく豊かな生活が送れるよう、住民主体の支えあい活動を拡げるための一助となることが期待される。 ・周知のために、支えあいつくばにて広報を行った。 ③・「栗原・栄地区（桜川近隣）の防災対策」について、小会議を開催し、地域の現状を確認。 ・イベントや勉強会を企画し、防災への関心を持ってもらう活動を地道にしていく方針となった。 ・参加された3名を中心に継続して協議をしていく。 ④・春風台サロン代表者と意見交換を行い、多世代交流をテーマとしたイベントを企画。 ・参加者43名（サロンメンバー高齢者10名・地域住民大人12名子供21名）。 ・子育て世代の親に対し、生活支援体制整備事業のアピールができた。地域づくりに関心のある若い世代の方と知り合うことができ学びの多いイベントとなった。	・会議で出た課題や取り組みたいことについて、具体化に向け住民と話しあいを重ねる。 ・地域によっては、課題が出ても担い手不足の問題があるため、協力頂けるような関係づくりに努める。
茎崎	①第2層協議体地域支えあい会議の開催(2回) ・コアメンバー会議の開催（2回） ・地域活動事例発表の事前打ち合わせ ②地域活動や取り組みに対しての支援、地域活動への参加 ・あしび野地区での地域活動に対し、さわやか福祉財団助成金申請支援 ・様々な地域イベントへ参加し地域独自の取り組みの把握、取材した内容を社協通信にて発信 （宝陽台夏まつり、森の里夏祭り、森の里餅つき大会、池向そば打ち会、あしび野揚げ物会等） ③茎崎ボランティアふれあい交流会の開催（10/19） ・テーマ検討など開催に向けた打ち合わせ ・茎崎地区へのチラシ回覧による事業周知 ④地域食堂に関わる相談対応 ・茎崎地区での地域食堂について、開催に向けた話し合い ・開催場所の候補地探しの検討・現場確認 ⑤地域関係者との情報交換 ・地域見守りネットワーク会議での地域関係者との意見交換（4回） ・茎崎地区民生委員生活保護部会研修会における事業説明	①地域支えあい会議開催に向けて、コアメンバー会議を行い、これまでの内容やこれからの方針について話し合った。社会資源集を作成しただけにせず、活用方法について検討した。地域活動の事例発表として、宝陽台地区の助け合い活動「宝志会」や地区防災組織の説明を行い、会議員からも今後の活動の参考となるような情報共有が行えたとの意見があった。 ②地域活動の開催支援も行いつつ、地域イベントに参加した。こういったイベントにより顔を合わせた関係性作りができ、地域見守りという観点でとても効果的である。活動内容等を社協通信にて発信し、取り組みの情報共有を行う他、事業PRにも努めている。 ③「障害を知り、共に生きる」をテーマとして、鳥取県が創設したあいサポート運動学び、地域住民としてどのような手助けや配慮が実践できるか学んだ。茎崎ボランティア連絡会と協同で開催しており、茎崎ボランティア連絡会との協力体制も築いていくこともできた。 ④地域食堂を始めたいとの相談に対し、どのような活動としていくか話し合ったが、開催場所として希望に合う会場が見つかっていない。ボランティアや食材を寄付して頂ける方などの心当たりは既にあるので、平日夕方又は土日のお昼に食堂を開催できる場所を継続して探していく。 ⑤区長、民生委員、ふれあい相談員、シルバークラブ会長、サロン代表者等、地域関係者を集めて情報交換の場として活用した。情報共有の場ができることで顔の合わせた関係性作りができた。地域見守りネットワーク事業の説明を行い、事業理解を促進していくことで、複数の目で地区見守りを進めていけるような体制づくりに努めていった。	・現時点で地域活動を行っていても、新住民との関わりや担い手の減少という課題から、いつまで続けていけるかわからないとの意見が出てきている地域もあるため、既存活動の継続支援を行っていく。 ・地域支えあい会議において、既に活用している社会資源集の見直しについて意見が出たため、コアメンバー等と相談し、検討していく。 ・様々な役職・団体の方が地域にて見守り活動等を進めているが、情報共有を行い切れていない地域が多数ある。地区の課題解決につないでいくためにも、話し合いを重ねることで、まずは顔を合わせた関係作りを行っていく。 ・地域食堂が開催できそうな場所を見つけ、実現に向けて支援していく。会議等を活用して、候補地となるような場所の情報提供もお願いしていく。

令和5年度つくば市個別ケア会議実績報告

資料NO.3

事業の目的	・高齢者等が抱える個別の課題を多職種協働によるケアマネジメント支援により、課題の解決への検討を行うこと。また、高齢者等が地域において自立した日常生活を営むために、自立支援、重度化予防及び高齢者等の生活の質の向上等の課題の解決への検討を行うこと。 ・個別事例の検討を通して地域課題の発見に繋げること。

	令和5年度実施内容	成果	課題・対策
圏域別ケア会議	**○ 実施内容** 多職種協働による個別課題解決及び個別事例を通じたネットワーク構築に繋げるべく、市内6委託地域包括支援センターで協議を行った。 事例は介護支援専門員、リハビリ専門職や薬剤師から提出し、多職種で意見交換することができた。 **○ 実施実績** ・6委託地域包括支援センターで、それぞれ4回ずつ実施（R6.2.8時点で20回実施）	**○ 個別課題の解決と課題の抽出につながった** 個別課題の協議ができ解決の一助となった。また共通した課題を明確化することができた。 **○ ネットワーク構築につながった** 多職種で協議することにより、圏域内でのネットワーク構築につながった	**○ 会議の形態を検討する** より個別事例の解決に効果的な検討がおこなえるように、ケア会議の形態を再考する必要がある・ **○多職種の連携を推進していく** 多職種によるネットワーク構築の場としての機能を高めていく必要がある。
クイックケア会議	**○ 実施内容** 6委託地域包括支援センターにおいて早期検討が必要なケースを協議を行った。 **○ 実施実績** 必要に応じて関係者間で協議、検討を行った。	**○ 困難事例や関係者間の早期検討が必要な事例について、速やかな協議を行うことができた。** **○ 各包括で行っていたケース会議を地域ケア会議に位置付けることができた。**	**○ 会議の形態を検討、整理する** より個別事例の解決に効果的な検討がおこなえるように、ケア会議の形態を再考する必要がある また、各圏域ごとに実施形態に差があるため、各圏域の特徴を反映しつつ、会議の形態を整理する必要がある。
自立支援型個別ケア会議	**○ 実施内容** 要支援者等の生活行為の課題を多職種からの助言等により、自立支援及び介護予防に資するケアマネジメントに繋げるべく協議を行った。医師、訪問看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、作業療法士、理学療法士、主任介護支援専門員の専門職によるケース検討を行った。 **○ 実施実績** 毎月専門職による事例検討を行った。（R6年2月8日時点で8回実施。それぞれ振り返り事例、新規事例1事例ずつ）。 また、第7回会議では本人が参加し、各種専門職から助言を受けることができた。	**○ 個別課題の解決につながった** 多職種による協議、助言により、事例の自立支援及び介護予防に向けたケアマネジメントに寄与した。 また、本人が参加した会議の際は、<u>介護予防に向けた本人の意識向上につながった。</u> **○ ケアマネジャーの支援につながった** 要支援者等に向けたケアマネジメントについて、多職種から意見を聞く機会を確保することができた。	**○ 会議形態を検討する** ケアマネジャーにとって事例提示がしやすい会議形態に向けて再考する必要がある。 また今年度試験的に行った本人参加での会議を推進していくべく会議形態を整える。 **○ 地域課題の分析にむけた整理を行う** 介護予防についての地域課題を分析するため、課題の整理を行う必要がある。
ピックアップケア会議	**○ 実施内容** 上記のクイックケア会議では解決しない、在宅医療・介護連携、自立支援等のケースの協議を行った。会議員は自立支援型個別ケア会議と同様とした。 **○ 実施実績** 各委託地域包括支援センターから応募があった困難事例について、多職種による課題解決に向けた検討を行うことができた（ R6年2月8日時点で2回実施）。	**○ 個別課題の解決につながった** 多職種による協議、助言により、事例の解決の一助となった。 **○ ケアマネジャーの支援につながった** 困難事例について、多職種から意見を聞く機会を確保することができた。	**○ 会議形態を検討する必要がある** 利用しやすい会議形態を再考する必要がある。 **○ 個々の事例のニーズに即した会議を行う必要がある。**

地域課題評価会議	**○ 実施内容** ・R3年度、R4年度に圏域別ケア会議で検討された事例（全73事例）をもとに、地域課題の分類・分析を6委託地域包括支援センターと直営包括で行った。 ○ 実施実績 ・R5年4月から7月にかけて4回実施。成果物として得られた報告書をW会議にて報告した（第2回W会議 資料3「地域ケア会議評価会議報告」参照）。	**○ 地域課題の整理、共有、分析を行うことができた。** 会議を通じ、地域課題を①介護力、②認知症・精神疾患、③多職種連携、④独居・身寄りなし、⑤その他 に整理することができた。また、課題を委託包括、直営で共有することができた。 **○ 圏域別ケア会議で出た課題を、市全体の地域ケア会議で検討する素地が作れた。**	**○ 地域課題を分析を継続する必要がある** 毎年行われる上記4つの個別ケア会議で積みあがった事例をもとに、関係職種と協働し、地域課題を継続的に分析、修正していく必要がある。 **○ 市全体地域ケア会議での協議につなげる** 分析された地域課題を市全体の協議の場に繋げられる体制づくりを引き続き行う。

Ｒ６年度以降
つくば市地域ケア会議と生活支援体制整備推進会議の実施内容と方法

当日資料１

つくば市地域ケア会議	
開催目的 （Why）	地域課題を協議し、**地域づくり・資源開発、政策形成**について検討する。
目的達成のための手段	①地域課題を発見する　②地域づくり・資源開発を検討 ③ネットワークの連結　④社会基盤整備　など
主催（Who）	つくば市地域包括支援課
参加者 （Whom）	**参加者の例** ①各圏域委託包括（6包括）　②介護支援専門員　③リハビリ専門職 ④医師会　⑤歯科医師会（歯科衛生士）　⑥薬剤師会 ⑦訪問看護　⑧施設関係職員　⑨病院関係（MSW） ⑩栄養士　⑪2層SC（2名） ⑫民生委員　⑬企業関係者　⑭PSW（精神保健福祉士） ⑮精神科医　⑯警察　計22名
内容 （What）	①各圏域の地域ケア会議から抽出された地域課題を**共有** ②専門職の立場から地域課題解決のための方策を**政策提言** ③高齢福祉計画等**行政計画の位置づけ**
日時 （When）	年に3回程度（6月、11月、2月を予定） 会議の間に必要時応じて分科会を実施
場所 （Where）	市役所会議室
どうやって （How）	①会議方式（グループワーク含む） ②司会進行は事務局が行う。

生活支援体制整備推進会議	
開催目的 （Why）	住民主体とし、互助を基本とした **住民主体の支えあいの仕組みづくり**を進める。
目的達成のための手段	住民の主体的な活動を支援し、住民と関係機関をつなぐため、生活支援コーディネーターが側面的に支援する。
主催（Who）	第1層協議体
参加者 （Whom）	**参加者の例** ①第2層の各圏域から市民の代表者複数名 ②第2層SC（7名） ③委託地域包括支援センター（2名） ④必要に応じて区会連合会、民生委員からの代表 ⑤必要に応じて多様な専門職の参加 ※全体のコーディネートは第1層SCが行う ※アドバイザーを配置
内容 （What）	①各協議体の活動内容や地域の社会資源、地域課題の**共有** ②住民同士の支えあいを中心とした**好事例を波及させる** ③住民同士の支えあいの新たな取り組みを**創出**
日時 （When）	年に3回程度
場所 （Where）	市役所会議室
どうやって （How）	1層SCが中心となり進行する （協議体内で話し合い、進行を検討）

令和５年度第３回つくば市地域ケア会議及び第３回つくば市生活支援体制整備推進会議　議事要旨

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td>令和５年度第３回つくば市地域ケア会議及び第３回つくば市生活支援体制整備推進会議</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td>令和５年 11 月 16 日（木）開会 午後 13 時 30 分　閉会 午後 15 時 50 分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>つくば市役所　会議室 201</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局（担当課）</td><td>福祉部地域包括支援課</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出
席
者
（42 名）</td><td>委　員
（18 名）</td><td>下村哲志委員、山中克夫委員、小原正彦委員、北島正義委員、石塚一夫委員、小林路江委員、今高哲生委員、大橋功委員、佐藤文信委員、黒田一路委員、但野恭一委員、椎名清代委員、佐々木湧人委員、根本けい子委員、白石通委員（オンラインでの出席）海老原良之委員、水谷浩子委員、福井正人委員</td></tr>
<tr><td>その他
（14 名）</td><td>つくば市社会福祉協議会　２層 SC 難波（筑波）、大塚（大穂）、長岡（豊里）、荻生（谷東）、堤（谷西）、宮川（桜）、小倉（茎崎）
筑波地域包括支援センター　松原センター長
大穂豊里地域包括支援センター　井ノ口センター長
谷田部西地域包括支援センター　今高看護師、下村社会福祉士
谷田部東地域包括支援センター　鬼久保センター長
桜地域包括支援センター　寺田センター長
茎崎地域包括支援センター　大塚センター長</td></tr>
<tr><td>事務局
（９名）</td><td>地域包括支援課：相澤課長、飯島課長補佐、川崎保健師長、松尾社会福祉士、佐藤保健師、佐野社会福祉士、宮主任
高齢福祉課：石川係長、川上主事</td></tr>
<tr><td>傍聴者</td><td>１名</td></tr>
</table>

～　令和５年度第２回会議の審議事項　～

検討・報告事項	協議事項、決定事項等
報告事項	【ごみ出し支援提言書提出報告】 ・10 月 20 日に提言書を広聴課に、委員長の代理として地域包括支援課から提出。提言書をもとに関係部署が連携を図って推進していきたい。 【高齢者等の移動支援セミナー報告】 ・９月の福祉有償運送運転者講習会、10 月の移動支援タスクフォース会議報告。 【２層ＳＣからの報告】 ・全体の実績と地域課題を報告。各圏域の社会資源集作成の経緯や内容について共有。資源集を一覧リスト化して配布、資源集内容の更新について提案あり、２層で協議する。
協議事項：移動支援の今後の方向性	・移動支援タスクフォース会議で出た提案として、①各圏域での移動支援についての協議の場や小セミナーの開催、②相談したい方の窓口、③移動支援に役立つ資料の提示の３つを説明。 ・２層レベルなどで、移動支援に対して関心やニーズの高い地域で、小セミナーを実施に賛同多数。 ・移動支援の相談窓口として、地域包括支援課を提示する案が提起された。担当課で検討する。
協議事項：令和６年度以降の２会議の実施内容	【実施内容に対する主な意見】 ・第１層協議体の主催や事務局がどこになるか、場所、時間の決め方などが不明慮。また、双方会議を橋渡し、コーディネートする役割が不明慮。 ・コアメンバー以外にも、関心の深い市民委員も加えるべきではないか。 ・コアメンバーは各圏域１名ではなく、複数名入れたほうが、活気づくし、地域の意見を吸い上げられる。 ・市の会議として、市民委員が必要な会議であるのか確認が必要。 ・会議内容はある程度決めておくが、始まってから考えるというやり方もある。

協議事項：事業の広報について	【事業の広報に対する主な意見】 ・「周知が十分されていない」とは、漠然としているのでは、どの情報をだれが知っていて、どの情報を知らないということを精査していかないといけない。 ・シルバークラブ連合会役員会、ふれあい相談員定例会、民生委員定例会などで、事業の話をしてもらいたい。 ・地域住民がＳＣとして活動をすれば、おのずと地域にも広がりやすい。 ・若い世代にどう周知していくかが課題だと思う。 ・難しい説明なしに、地域活動における具体例を挙げることによって、事業が周知される。
その他：委員からの報告	【ごみ出し支援実証実験についての報告】 ・つくば市は 12 月より、小田地区でごみ出しをロボットが支援する実証実験を計画しており、小田地区いきいき会議が協力している。タスクフォース会議からごみ出し支援の検討をした中で、出たことと実感している。